

新漁業管理制度推進情報提供事業

(抄 録)

高橋進吾・佐藤晋一・黄金崎栄一・今村 豊

海 況

青森県沿岸の海況は、日本海沿岸・沖合定線観測、太平洋沖合定線観測結果から求めた。

対馬暖流（日本海）・津軽暖流（太平洋）の流勢指標を平年と比較することで表現すると、次のとおりである。

1 日本海（観測月 2～12月の各月1回）

対馬暖流の勢力は、全般に平年並～やや弱めで推移した。

表面水温は、全般に平年並～やや高め、50m・100m層は平年並～やや低め、水塊深度は平年並～やや浅め、北上流量は平年並～やや少なめで推移した。

2 太平洋（観測月 3月、6月、9月、12月の各月1回）

津軽暖流の勢力は、全般に平年並～やや強めで推移した。

水温は、全般に各層とも平年並～やや高め、水塊深度は平年並～やや浅め、東方への張り出しは平年並～やや強めで推移した。

漁 況

本年の特徴は、全県的なマイワシ、マサバの引き続く不振、日本海および津軽海峡におけるスルメイカの回復であった。

沿岸域におけるスルメイカー本釣は、太平洋では八戸の不漁がひびき約4千トン（対前年比61%）であったが、日本海では約6千トン（対前年比217%）、津軽海峡では約4千7百トン（対前年比182%）と回復の兆しをみせ、全県合計では前年をやや上回った。

マサバは八戸で約1万6千トン、陸奥湾湾口部の平館で約53トン、日本海で約23トンと各海域とも前年より若干上向いたものの、依然低い水準にあった。

マイワシは八戸で約132トン、平館で約35トン、日本海に至っては皆無状態と前年に引き続き不振で1985年以降で最低となった。

ヤリイカは、日本海で約835トン（対前年比72%）、津軽海峡約107トン（対前年比58%）と前年より減少した。

日本海のマダイは、前年に続き100トン以上（対前年比108%）となり好漁であった。